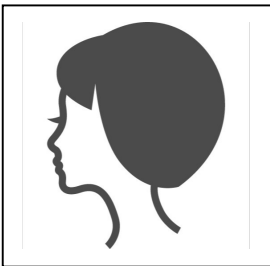


## 大学・学問論 第4回「学生調査と『金沢大学生』の学び」 ケースメソッド教材 ～大学での学習・活動と社会との繋がり～



氏名：旭町友哉（あさひまちともや）  
金沢大学 学校教育学類卒業（石川県出身）  
年齢：35歳  
家族構成：妻（共働き）、娘4歳、息子1歳  
現職：金沢大学事務職員（法人本部総務部広報課係長）  
その他：築50年の職員寮に住み一軒家購入のために貯金している。

両親が高校教員だった影響もあり、地元の公立学校の教員を目指して、金沢大学学校教育学類に進学した。大学の授業を真面目に受ける一方、教員採用試験のための勉強を1年生から始めていた。しかし、教育実習で体験した教員という職業の難しさを感じ、教育に携われる別の職業を探すことを決心する。就職活動の結果、河合塾とベネッセコーポレーションから内定を獲得するものの、3人兄弟の長男であり、実家を継ぐことを両親から暗に仄めかされた。そこで国立大学法人等職員採用試験一次試験を受けて通過し、2次試験は地元から近く母校でもある金沢大学を受け見事合格する。入職後の仕事も順調で元来の真面目さの評価が高く、入職5年目に文部科学省に1年間出向した。金沢大学に戻った後、入職後に交際を始めた同僚と結婚し現在に至る。忙しい時期もあり決して高給ではないが、安定した生活に満足している。しかし、少子化の影響もあり、国立大学であっても経営状況は正直なところ苦しい。「家庭も仕事も安定していて幸せです。ただもし大学が破綻した時に、自分のこれまでの経験から企業が雇ってくれるのかは全く自信がないんです。」



氏名：田上玲子（たがみれいこ）  
金沢大学 国際学類卒業（愛知県出身）  
年齢：35歳  
家族構成：夫（アメリカ人）、娘2歳、息子1歳  
現職：専業主婦  
その他：在学中にニューヨーク州立大学バッファロー校に1年間留学した。

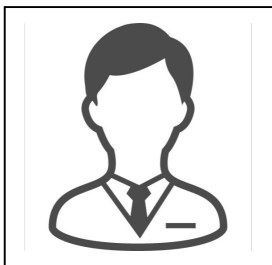
父親の仕事の都合で2歳から3年間イギリスに住んでいたことがあり、英語は比較的堪能で、将来外国で働きたいと考えていた。しかし、小学校入学後に日本の文化に馴染むことができず、友達がなかなかできないという寂しい思いをした経験から中高時代は内気な性格となっていた。地元の名古屋大学文学部に進学し、美学美術史学を学びたいと思ったが、センター試験の数学で十分な点が取れず、志望校を変え金沢大学国際学類を受験し合格した。得意な英語力を活かして、留学生と交流したり、フランクな国際学類の同級生と交流したりしている内に自分自身に自信がついてきた。大学3年次に、金沢大学と留学協定を結んでいたニューヨーク州立大学バッファロー校に1年間留学した。留学先では、就職活動や大企業でインターンをする同期に刺激を受け、価値観が変わった。また、有名教授からマスメディア論について学んだ。帰国後の田上の自信あふれる快活な姿を見た友人達は、「まるで別人になったようだ」と述べている。就職活動では、留学先で学んだことを活かし大手広告代理店の内定を勝ち取り、就職する。就職後、大学時代には考えられなかった顧客の厳しい要求や、膨大な量の仕事に困惑するも、上司や仲間の支援により社会人として益々成長をしていった。30歳の時に仕事で知り合ったアメリカ人男性と知り合い結婚する。結婚に合わせて夫の母国に移住し、現在二人の子どもを育てる専業主婦である。「バリバリ仕事していた時も楽しかったけど、ひょっとしたら今の方が幸せかも。」

## 大学・学問論 第4回「学生調査と『金沢大学生』の学び」 ケースメソッド教材 ～大学での学習・活動と社会との繋がり～



氏名：小立野彩（こだつのあや）  
金沢大学 地域創造学類卒業（神奈川県出身）  
年齢：35歳  
家族構成：独身  
現職：社会起業家（児童養護施設出所後の就職支援）  
備考：学園祭サークルで運営の中心メンバーとして活躍した。

母親が社会福祉系 NPO 活動の運営に積極的に関わっているのを小さな時から見ていて、母親のような大人になりたいと将来の夢を描いていた。高校時代に自宅近くの児童養護施設のバザーに参加した経験から、児童養護施設は虐待などの問題から、両親と離れ施設で暮らさなければならない子ども達を保護し、受け入れている現状を知り、彼らを支援する社会起業家になろうと決意する。高校卒業後は自立した大学生活をおくりたいと考え、自宅から通える首都圏の大学を選択肢から除いた。また、母親が NPO 活動をする中で知り合った社会福祉領域での支援団体（起業、NPO）について研究する大学教員が、金沢大学地域創造学類にいたことがわかり、進路希望をそこにし、結果見事合格する。入学後から、起業や社会福祉に関する勉強だけは積極的に行い、それ以外の授業は卒業に必要な単位だけ取れば良いと割り切った。大学4年次には児童養護施設出所後の就職支援マッチングサービスを行う「株式会社フェアサポート」を起業し、社長一人だけの小さな会社を始めた。卒業後は地元横浜に戻り、何度かの経営危機を乗り越えながら、起業から13年たった現在、社員3名を雇用できるまで成長した。これまで支援した施設出身者は100名以上に登り、日本の社会起業家 BEST10 名にも選ばれた。「年収は300万。休みはほぼなし。月3万円のアパートに一人暮らしだけど、就職支援した若者達の笑顔を見るだけで私の心は満ち足りた気持ちになります。」



氏名：角間健太郎（かくまけんたろう）  
金沢大学 経済学類卒業（静岡県出身）  
年齢：35歳  
家族構成：妻（私立大学 B 大学経営学部講師）  
現職：国立大学 A 大学経済学部講師  
備考：気の合う数名の親友を作り、適度な距離で仲良くするタイプ。

なんとなく地元進学校に入学し、家計の関係上、国立大学を選択肢とし、センター試験結果との兼ね合いで金沢大学経済学類を受験し合格する。明確な目的がないまま大学に入学したため、同期が1年生から公務員試験の勉強をするのを見て、なんとなく公務員志望となり、参考書を買ってみるが、3ページであきらめる。その後は、サークルやバイトもせず漫然と過ごす。卒業までに必要な単位を取得できずに留年する。次年度にはなんとか卒業できたが、進路が見定められず金沢大学大学院修士課程に進学する。ある時、友人に誘われて参加した地域のお祭りで、地域の商店街の困窮を知り、日本の地域経済について興味を抱く。その興味がやがて地域経済学へと繋がり、これを学び研究することの楽しみを覚える。そのまま博士課程に進み、博士号を取得後、非常勤講師をしながら大学教員の就職活動を行う。現在の A 大学に採用されたのは1年前で、採用と同時に学会で知り合った妻と結婚した。「普通の人から見れば留年は失敗かもしれないけど、たった一度の失敗では人生は終わらない。興味のあることを好きなだけ研究できる今の仕事ほど自分にあった楽しいものはないです。」

# 大学・学問論 第4回

## 学生調査と「金沢大学生」の学び

金沢大学 国際基幹教育院  
高等教育開発・支援系  
上畠 洋佑

E-mail: [yousukeu@staff.kanazawa-u.ac.jp](mailto:yousukeu@staff.kanazawa-u.ac.jp)

2017年12月25日(月)  
場所：総合教育棟D9

## 0. 講義の目的・自己紹介 5分

### 1. 学生調査について(講義形式) 10分

- ・GS科目英語化調査、フォーカスグループインタビュー(10分)

### 2. 「金沢大学生」の学び 40分

- ・2つのルーブリックと自己評価(10分)
- ・学習の振り返りと学習成果の構築(25分)
- ・シンクペアシェア(5分)

### 3. ケースメソッド型授業 30分

- ・ケースメソッドについて(5分)
- ・個人ワーク 回答する (5分)
- ・グループワーク 考えを共有する(15分)
- ・グループ発表(5分)

### 4. 講義のまとめと質疑応答 5分

金沢大学に入学してからの**学習成果**を  
自分自身で**振り返り**、  
自分自身で**構築**することができる。

自分の考えを伝え、他者の考えを知り、  
様々な人の考えを共有して  
自分自身を**相対化**して見ることができる。

## 個人ワーク

### ・大学での学習・生活と社会との繋がり

1. ケースの登場人物4名の内、誰になりたいですか？  
また、そう考えた理由は？

# (別紙)ケースメソッド型授業

## グループワーク

・各自で考えたことを共有して、グループでケースの登場人物4名の内、誰になりたいか決めてください。  
あわせてその理由を記載してください。

1. 誰になりたいか。

旭町友哉 ・ 田上玲子 ・ 小立野彩 ・ 角間健太郎

2. なぜになりたいか。(以下に自由に記載してください)

メンバー氏名

|   |     |     |    |
|---|-----|-----|----|
| ( | )、( | )、( | )、 |
| ( | )、( | )、( | )  |

※こちらの別紙の個人情報や回答内容は、金沢大学の教育改善活動又は研究活動以外では利用いたしません。  
また、学会等での発表時において回答者が特定されることはありません。